ねじりはちまき

１０月　神無月　寒露　霜降の月になりました。
１０月１日衣替え、寒露は８日です。えびす講２０日、霜降２４日です。

今年の夏は、前半は県内の過去最高の気温を記録して、後半は長雨で、日照り不足、天候不順といえました。８月に長袖の下着を着るなど、９月に入っても雨は止まず、二百二十日の台風１７号１８号の猛威、県内でも甚大な被害が出ています。自然災害が起こる度に、人間の無力さを知らされます。しかし、茫然としている場合ではないのです。みんなで知恵を出し団結して、それに立ち向かわなければならないのです。
また来る冬も記録的な寒さなどと、無きにしもあらずです。
暖房器具の調節、そして家の窓の戸、障子とか襖の立て付け、そして外壁、屋根のはがれ目など、よく点検して隙間があれば早めに直しておきましょう。

朝夕の秋冷えが深まります。
何卒、ご自愛専一に。

幸田　常一

お世話になっております。
先月に引き続き、本宮市の現場で増築工事をお世話になっております。また、同じく本宮市の現場なのですが、住宅の改修工事と新築工事をさせていただくことになりました。

身辺雑感　４２

ナイショク

私は地方公務員として、３８年余りの勤務をしました。この３８年余りの間に、１７回の転居（大部分は転勤に伴うもの）をして来ました。２０数年前にこの転居から解放され、ｋ市に住居を構えることが出来たわけですが、この間家族には筆舌に尽くせぬ苦労をかけて参りました。特に家内には、大変な苦労を掛け続けて来たと考えております。家の事は総て家内に任せきりの生活だったと反省しております。

私たちの現役時代は、「男子は仕事に専念するもの」「女性は子育てと家事に専念するもの」と、勝手に思い込んでおりました。今の時代には全く通用しない理屈と思います。子どもの入学、進学、授業参観などは総て家内任せ、家計にもノータッチでした。今、家内の事を想うと、地方公務員は民間の会社員より薄給であり、子どもの教育費を捻出するため、内職をしたりパートに出たりを繰り返しておりました。

地方公務員を退職した後、歴史学者 磯田道史氏の著書「武士の家計簿」が大きな話題となりました。この本は、幕末の加賀藩（１００万石）の下級武士の家計を、資料に基づき著述したものと言われております。映画にもなったと聞いております。江戸時代の末期は、どこの藩も同じく財政が逼迫しており、下級武士は一家揃って内職（武士は楊枝作りや唐傘作り、夫人は縫い物等）に励み、家計を補っていたと言われております。

私の地方公務員として奉職していた時代（現在の給与体系は不明）も、子どもの教育費を得るために、月給では不足が生じて家内が内職をして不足を補っていたものです。この様に、江戸の昔も昭和の時代も公務員の暮らしは、容易ではなかったと思っております。

しかし、現在の生活はどうか。２人揃って元気で１戸建ての家（この住宅は幸田建設さんに建てて頂いたもの）に住み、マイカーを運転することもでき、好きな野菜作りを楽しみ、山の仲間に連れられて毎月山に登り、大自然の景観を存分に満喫できる幸せをしみじみと感じております。この様に満足した生活ができるのは、それぞれの立場で懸命に努力を続けてきたことと、転居の度に親身になって面倒見て下さった地域の皆様方、そして職場の皆様方の御力添えの結果であると感じております。

この様に夫婦で懸命の努力を重ね、多くの方々にお世話になり、現在の幸せな生活が可能になっているものと思います。このことを忘れず、地域の皆様の多少ともお役に立つことができれば大変有難いと考えるこの頃です。

ｋ・ｓ記

夢を見続ける男　NO18

日本人と自然

日本人の自然に対する感性というか昔からどう向き合ってきたのか、いろんな角度から触れてみたい。先ず庭園だが、例えば、庭園は日本庭園と西洋庭園ではどんな違いがみられるだろうか。西洋庭園はいかにも幾何学模様のようであるのに対し、日本庭園は自然を模倣したというか、自然を庭に再現するかのようだ。これに似通っているのが、盆栽である。自然の風景を模し造形するとあるが、自然をミニ化する形で家の庭など身近なところにおいて、日々鑑賞する。盆栽は外国でも静かなブームになっているという。とにかく日本庭園には山（築山）あり、滝・川あり、湖（池）あり、常緑樹・落葉樹と各種樹木あり、花木・草花あり、そこで四季の移ろいも鑑賞できる。枯山水もあり、苔むす庭園もある。借景もある。これが寺院建築と一対になっていることも多く、宗教的意味合いも込められている。宗教といえば山岳信仰がある。神仏習合の要素もあるが、自然（山、岩、滝等）に神が宿ると敬い、自然に接する中での修行を重要視する。そもそも神社も鎮守の森の中に鎮まり、山や滝、木をお祭りしてあるところもある。浅間神社のご神体は富士山であり、奈良の大神神社は三輪山がご神体、熊野の那智大社は那智滝がご神体、そして大岩をご神体にしている神社に山中湖村の石割神社がある、和歌山県古座川町の祓神社は欅の大木が本殿になっている。日本人の信仰には自然とは切り離せないものがあるといえよう。農業に密着したところでは、地方によって異なるが山の神、水の神、稲の神など農の神々が祭られている。お寺も山の名が付いているのは面白い。山号というが、仏教が伝来した中国に習ったものだが、寺院が山岳の地に置かれたのは霊的雰囲気というか自然との関係が重視された現れであろう。これに対して西洋の大聖堂は大体街の中心地にでんと構えているのが通常である。

日本人と自然との関係で忘れてならないのは春夏秋冬の「四季」である。自然を吾が生き様に重ね合わせてみる感性を培ったといえよう。晩秋に人生の無常を感じる場合もあれば、松竹に生命力や永遠性を感じとり、春の訪れに新たな生命の息吹を感じる、といった具合である。「山笑う」「山装う」「山眠る」という俳句の季語もある。松竹梅は慶事や吉祥のシンボルとして３点セットでお祝いに用いられる。また、四季の変化は食文化を豊かなものにした。それに目で食べる美しさを演出する和食は、紅葉などを添えて自然を感じ取らせる工夫もする。日本画の世界では「花鳥風月」を描く伝統もある。そこには単に写実の描写でなく、自然のもつ生命力が画面に躍動するのを感じさせるものである。寺社に今も残る様々な屏風絵にはそれが見られる。生け花やお茶はそれぞれ華道、茶道とも称されるが、道とするところに日本人の感性が読み取れる。その生け花やお茶を通して、心静かに己と向き合うのであろう。流派によって考えの違いはあるのかも

知れないが、共通項はあるものと思う。茶道でも茶室に一輪の椿が置かれることによってそこで抹茶をいただく意味合いが深まってくる。生け花では、小生にとっては野の花を摘んできて小さな花瓶に生けるのを好む方である。
日本の文化は木の文化、西洋の文化は石の文化といった哲学者がいたが、それがすべてを言い当てているとは言えないにしても、一つの側面を指している。今も残っているヨーロッパの古代ローマや中世の都市は、建築物も土木施設も見事に石で建造されている。それに対して日本の都市は建築物を始め木材を主にして建造されている。もちろんヨーロッパでも木組みの家屋はあるし、日本でも石は石垣や石畳とし使われている。同じ自然物ではあるが、使われ方がこうも違うのはどうしてか。よくわからないが、興味深いことではある。建築物でいうと、ガラスと障子の違いもある。障子紙は伝統的に和紙であったが、この和紙が世界無形遺産に登録された。和紙の原料はコウゾ、ミツマタで、これは植物あり、自然が生かされている。しかも和紙に墨で書いた書類は永く保存が可能である。また、和紙の造形世界は何とも心が和らぐ雰囲気を醸し出してくれる。また、染物に草木染というのがある。植物の葉、茎、根、実を加工してその色素を染料にするもので、代表的な植物としてはベニバナやアイがある。これもまた植物を生かしたものである。織物には絹織物があるが、日本でかって盛んであった養蚕で産出された絹が使われる。絹は蚕が桑の葉を食べてやがて繭をつくり、その繭を紡いで絹となる。その工程は自然の営みそのものであり、自然の恵みである。
漆器は木と漆でできており、陶器は土と釉薬を使う。実用品でもあり、芸術品でもある。大変な手間、工程がかかるがそれを経て人の心を打つものが完成する。
日本の神話にふれたい。スサノオノミコトはヤマタノオロチを退治したことで知られているが、その退治の後スサノオノミコトが出雲でクシナダヒメを妻に娶ったときに歌を詠んだ。それは「八雲立つ　出雲八重垣　妻籠（つまごめ）に八重垣作る　その八重垣を」というものだ。日本最初の和歌といわれるが、これを読んでどんな印象を受けるだろうか。自然を詠む形を取りながら、妻を思いやる気持ちが込められているとは思いませんか。つまり直接的ではない愛情表現がなされたわけである。次に奈良時代の「万葉集」の歌を二つ紹介しよう。

夏の野の　繁みに咲ける　姫百合の　知らえぬ恋は　苦しきものそ
路の辺の　壱師の花の　いちしろく　人皆知りぬ　わが恋ツマを
（注）壱師：彼岸花　　いちしろく：著しい

歌の意はわかりやすいかと思う。いずれも野の咲く花になぞらえて言わんとするところを表現している。自然（花）に己が心を映して見ていたのであろう。
最後に「銀座ミツバチプロジェクト」のことである。銀座のビルの屋上でミツバチを飼ってハチミツを採り、それを製品化して売っているというのである。都会の中にそれだけの自然（花）があるというわけである。それを手掛けた人もすばらしいが、花の所在を見つけて蜜を集めてくるミツバチはなおすばらしい。

十三夜

10月25日は十三夜ですね。
9月の十五夜に対して、「のちの名月」と呼びます。
その時期の収穫物の豆や栗を供えるので、「豆名月」とか「栗名月」ともいいます。

今月の旬❤食材

「　ごぼう　」
ごぼうは何といっても食物繊維が豊富な野菜で、整腸作用があるといわれています。ミネラルの成分も豊富に含まれています。むくみ、美肌、便秘、高血圧など色んな面で効果があるようです。
ごぼうは1年中スーパーなどで販売されているので、いつでも食べられますが、旬は10月頃です。
平安時代には、すでに宮廷の献立にごぼうが使われていたそうです。
日本人とごぼうの出会いは、かなり古いのですね。
ごぼうというと、きんぴらにしたり、煮物に入れたり、鍋に入れたりが一般的ですね。茹でて、他の野菜と一緒にからしマヨネーズで和えたり、食べやすい大きさに切り片栗粉をまぶして揚げ、甘辛いたれをからめたごぼうのから揚げもおつまみになっておいしいです。

もめん豆腐と絹ごし豆腐…

10月2日は、「豆腐の日」なのだそうです。
もめん豆腐と絹ごし豆腐の違いってご存知でしたか…？
もめん豆腐は豆乳をこすときに、木綿を使うからなのですが、絹ごし豆腐はもめんと比べて食感が柔らかく、絹のようにきめ細やかなことから絹ごしと呼ばれるようになったそうです。
作り方も少し違うようで、もめん豆腐は豆乳にニガリなどの凝固剤を加えて固めたものを、木綿の布を敷いた型箱に流し込み、その上から重石をして水分を切り作られます。絹ごし豆腐はもめんよりも濃い豆乳を使います。重石で水分を切らずニガリなどの凝固剤でそのまま固めて作ります。水分をたくさん含んでいるから、柔らかなのです。今日は何だか、豆腐が食べたいですね。^ー^

＜会社近況＞

　１０月に入りました。
朝晩涼しくなりましたが、日中は暖かいので毎日過ごしやすいですね。

　外に出て空を見上げると、すっかり秋の空。
空を見上げて、思いっ切り体を伸ばすのも気持ちがいいものです。
たまに、うろこ雲を見つけます。
正式名称は、巻積雲（けんせきうん）といい、お天気が崩れる前によく
現れる雲なのだそうです。
さて、今日の空にはどんな雲が出ているのかな…？

　現場では増築工事の他に、住宅改修工事が始まりました。
改修工事の現場は今月下旬に完了いたします。こちらは先代社長の幸田常一が若い頃に新築させていただいた現場で、数十年が経ち今回またお世話になれるということで、大変感激いたしております。
　また、住宅新築工事の現場も本宮市で、こちらも工事開始させていただきました。大変お世話になります。

…お知らせ…

　１０／１２（月）「体育の日」
　ご迷惑をおかけいたしますが、お休みさせていただきます。

……

平成２７年１０月５日発行
　有限会社　幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒９６９－１２０４
本宮市糠沢字八幡１－１
電話、
０２４３－４４－３８１６

＜後記＞
　秋分の日が過ぎ、これから
次第に秋が深まって行きますね。
もうすぐ、家の周りでは稲刈りが始まります。収穫の秋まっただ中で、とても忙しくなりますね。さわさわと稲穂が風に揺れる様も美しいものです。
（事務員ｋ）